



2015年8月5日

## ブラジルに「波乱の8月」到来か？

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

### S&P が外貨建てブラジル国債の格付けをネガティブに

米格付会社 S&P が、外貨建てブラジル国債の格付け見通しを「ステーブル」から「ネガティブ」に変更した（7/28）。同社によるブラジル国債の格付けは現在 BBB-。投資適格級の最下位であり、もし格下げとなると同社からは投資不適格とされることになる。

見直し変更の理由として、S&P は政治的な不透明感を指摘している。汚職事件の捜査が政府高官に及ぶ可能性があり政府の求心力が低下している。その中で、政府は緊縮財政実現のために連邦議会の協力を取り付ける必要があるが、これに暗雲がたちこめてきているのだ。

### 連立相手からの造反も。政府は窮地に

ルセフ政権にとっての一番の痛手は、連立相手の民主運動党（PMDB）出身のクーニャ下院議長の造反である。クーニャ議長は、自身にも収賄疑惑が及ぶと政府批判を開始し、連立からの離脱を宣言。財政支出を増加させる法案を準備するほか、下院で大統領罷免決議案の審議を「公約」するなど、反政府的言動が目立ってきた。

野党である民主社会党（PSDB）は、本来財政再建派であるはずだが、大統領罷免に向けては共闘する見通しで、8月16日に予定されている大規模な反政府デモに参加を呼び掛けるテレビ広告を流す計画である。

一連の動きは、今後の政権運営の困難さを示唆する。緊縮路線が揺らげば、来年のどこかで国債が格下げされるリスクを意識せざるをえなくなる。

足元でレアルの対ドル相場は12年ぶりの安値となる1ドル=3.4レアル台に下落している。株価も軟調である。ブラジルの8月には要注意である。

図1:対ドルレート



図2: 株価指数(Bovespa)



当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。